

- 1 件 名 第3回アリーナ整備検討会議
2 日 時 令和6年11月20日(水) 9:30～11:00
3 場 所 本庁舎3階 第3会議室
4 会議内容
-

【9時30分 開会】

【司会】

定刻となりましたので、ただ今から第3回アリーナ整備検討会議を開催いたします。
みなさま本日は、ご多忙のところ、多数の方々にご出席を頂きまして、誠にありがとうございます。
本日の司会を担当いたします、岡山市市民生活局
スポーツ文化部長の浅沼と申します。
よろしくお願いいたします。

なお、本日は、
岡山商工会議所 高橋専務理事の代理として、森副会頭が出席されております。また、岡山商工会議所
スマートベニュー構想実現委員会 延原委員長はご欠席です。
また、岡山県スポーツ協会の松井専務理事は遅れております。(最終的にご欠席)

会議の前に、お手元の資料をご確認ください。

- ①本日の次第
- ②アリーナ整備検討会議のメンバー表
- ③配席表
- ④資料1 アリーナ整備に関するアンケートについて(中間報告)
資料2 イベントプロモーターへのヒアリング結果について
資料3 アリーナの最適規模について
資料4 アリーナ席数の考え方について(他都市比較)

以上となっております。すべての資料がございますでしょうか。

(確認完了)

それでは、開会にあたり、大森岡山市長からごあいさつを申し上げます。

【大森座長あいさつ】

【司会】

ありがとうございました。
それでは続きまして副座長の岡山商工会議所 松田会頭からご挨拶をいただきたいと思います。

松田会頭、お願いいたします。

【松田副座長あいさつ】

【司会】

ありがとうございました。

それでは、これより議事に入りますが、進行は座長の大森市長にお願いしたいと思います。

それでは大森市長、議事の進行をお願いします。

【大森座長】

それでは、議事の進行を務めさせていただきます。座ったまま進行をさせていただきます。

お手元の資料の次第に沿いまして、進行してまいります。

「(1)アリーナ整備に関するアンケート(中間報告)について」ということで、事務局から説明させていただきます。

よろしくをお願いします。

【事務局】

(1)アリーナ整備に関するアンケート(中間報告)について 説明

【大森座長】

ありがとうございました。ただいまの説明に関しまして、何かご質問等がありましたらよろしくをお願いします。よろしいでしょうか。

では、とりあえず、今のアンケートということで、これは岡山市民に限定していることではないですね。広く、基本的には県民ということでよいでしょうか。

【事務局】

はい。

【大森座長】

そういった方からのアンケートがこういう状況になっているということをご認識いただければと思います。

それでは、次の議題に入らせていただきます。

「(2)イベントプロモーターへのヒアリング結果について、(3)最適規模の考え方について」

岡山市多目的屋内施設(アリーナ)整備に係る追加調査業務の受託者である、パシフィックコンサルタンツ株式会社の名倉さんから、一括して説明をいただきます。名倉さん、よろしくをお願いします。

【名倉氏】

(2)イベントプロモーターへのヒアリング結果について

(3)最適規模の考え方について 説明

【大森座長】

ありがとうございました。いま説明いただきましたが、様々なご意見があると思います。それはまた各人

から私にご意見を言ってもらえればと思うのですが、いまの説明でわかりにくかった点、質問があればまずはお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。では羽場さん。

【羽場氏】

貴重な情報ありがとうございます。U字型とC型という形に大変興味を持ったのですが、その場合の、いわゆるコンサート利用とスポーツ利用の対比というか、コンサート利用時 8,000 だったらスポーツ利用時何人ぐらい行けそうだという、その一般的なもので結構ですので教えていただけたらと思います。

【名倉氏】

どのぐらい席数が減っていくか増えていくかというのは、計画によってかなり差が出てくる場所ではあるんですけども、先ほど最初にご説明した資料 4 の一番右③のコンサート利用時のこのグレーの使わない席をどのぐらい減らせるかになってきます。

1つの参考としては、例えばC型として全体で1万席規模とされている神戸アリーナの今公表している例としては、スポーツ利用で1万。エンドステージモードや、センターステージモードでも同等の1万というのをうたっている施設もあります。

一方で、先ほどご説明したララアリーナの場合は、この奥の正面ですけど、このステージが来るところの下の部分、この席がなくなってコートがある部分に少し席数が回ってくるような形なので、ここも席数の減というのは少ないのではないかなと考えています。

正確には、コンサート利用時、コンサートステージの大きさによっても変わってくるので、一概には言えないと思いますが、席数の減は全周にスタンドよりは半分少なくなってくるという理解です。

【羽場氏】

ありがとうございました。

【大森座長】

それでは三村さんお願いします。

【三村氏】

背景、貴重な報告ありがとうございました。

特に資料 3 についてなんですけど、これパシコンさんが作られた資料、出典を書くとするならば御社と理解してよろしいですね。

とてもわかりやすいご説明ありがとうございました。ところで、この図と試算は、①プロダクトアウト的な試算として、これだけの箱をつくれればこれだけ集客できるという先行事例、実績数に基づいて収支シミュレーションが書かれているのか、②御社の数式と仮説(ノウハウ)で算出された収支シミュレーションなのか、③岡山の持つ各種データを裏付けとして集客についての規模と実数が考慮されて作られているのか、算出根拠を教えてくださいたいと思います。

【名倉氏】

今回のこの資料は、イメージとしてご説明させていただきましたが、もちろんこの裏では、どのぐらいのコンサートの回数で、それぞれに席数の規模を設定して、どれぐらい入ってくるか、というのを現状でのシミュ

レーションの結果としてイメージに落とし込んでいるものになります。

【三村氏】

実数が反映されている、これからできるものは別として、今稼働しているものについては、数字が裏側にあると見てよろしいわけですか。

【名倉氏】

今回新しく作る、アリーナでの想定数を出したものです。実数というと、まだできていないので、バスケやバレーは今ジップアリーナで使っている情報をもとに、新しいアリーナができればこのぐらいが見込まれるという数字を入れています。

【三村氏】

失礼いたしました。これはですから、あくまで今度の岡山市の新アリーナについてのシミュレーションを、全国の先行しているアリーナの数字も含めて、シミュレーションした結果がこうだというふうなご理解でよろしいですね。

【名倉氏】

はい。その通りです。

【三村氏】

わかりました。ありがとうございました。

【大森座長】

それでは高谷さんお願いします。

【高谷氏】

商工会議所の高谷でございます。ご説明ありがとうございました。

今このサイズ感の、今日市長からもあったんですが、5,000 人という中で、大きい小さいの議論があるんですが、スポーツからすると実際 5,000 人集めるというのはすごく大変なことだと思います。簡単に1万2万と言いますが、どういうコンテンツがあってそれを集めていくのか。

スポーツのレギュレーションからすると、5,000 あれば大丈夫なんですね。一応。多分、今一般の人が8,000 人から1万人という、やっぱりコンサートのイメージをされていると思うのですが、実は会議所の方でもいろいろヒアリングをする中で、ここがポイントなんです、実際 5,000 人以上呼べるアーティストが今のぐらいいるのかということ、なかなかいない。1 万人呼べるアーティストほとんど数名。外タレは別にして。今、日本のアーティストで、本当にどのぐらい呼べるのか、どのぐらいのコンテンツがあるのかっていうのはなかなかまだヒアリングができてないんですが、そういう観点からして、結局広くても、集めてみれば5,000 でよかったねとか、コンサートやってみて、そのあたりの実際の見解って、いかがでしょう。

【名倉氏】

正確なアーティスト数というのは把握していませんけども、プロモーターさん協会では、全国で、小さなう

イブハウスから、大規模な 1 万席規模以上のコンサートまでのデータというものがあるようで、今回伺ったプロモーターさんも、その辺の情報は把握をされていました。

伺った中では、1万席規模以上が埋まるアーティストは 20 組ぐらいしかいないというお話は伺っていません。

アリーナツアー規模、今回で言うと 7、8,000 規模ですけども、その辺のアーティストは結構いるので、岡山市としてはこの辺で埋められるというようなご意見にはなっています。正確な数は把握していません。

【大森座長】

よろしいでしょうか。はい、どうぞ。

【三村氏】

今の高谷副会頭の話に関連しますが、実数でどのぐらい入るのかという点にこだわったのは、例えば、岡山県が生んだアーティストで藤井 風さんがいます。彼は日産スタジアムアリーナ(観客席国内最大級の約 72,000 席)でコンサートを開くわけです。こうした大都市圏・超大規模施設を含む様々な全国のトータル平均値はエンタメの際の参考値とはなりますが、果たしてどこまで岡山の土地柄や実力と実態、人口推移や呼び込む力等を反映できるのか、将来的なシミュレーションを計測、この数字が新アリーナの将来を予測するために本資料を如何に活用すべきか、前向きに申し上げます。つまり、数字を読み解きながら、将来的な予想を踏まえて議論をしたいですね。

また、前回第 2 回会議でも申しました通り、まず箱の仕様と目的を決めねばの議論は必要であります、岡山市総合計画(10 年)ですとか、まちひとしごと創生総合戦略(5 年)に基づき、わが国全体が急速に変化を遂げつつある中で、どのぐらい、どのように人を呼び込み、それが地域社会にいかに関わり活力をもたらし、地域が創生するための原動力になり得るか、というような吟味をしなければならないということを前提に申し上げます。

【大森座長】

どうぞ。

【高谷氏】

もう 1 つ質問です。このアンケートの中にも、実は商工会議所の方でも MICE という考え方、コンベンション施設というのを一つのテーマで議論したこともあるんですが、このアンケートの中にも見本市・展示会という、アンケートの結果が 10% 出ているんですが、例えばスポーツ、それからコンサート、プラスこの展示会や見本市会場的な使い方ができるのか。そのあたりは床の問題などがあると思うのですが、そのあたりは可能でしょうか。

【名倉氏】

MICE 利用も想定しています。先ほどの、現時点ですけれども、シミュレーションの中には、スポーツでの週末の 1 試合のイベントを埋めて、残りのところでコンサートがどのぐらいの比率があるかっていうのを埋めて、平日も含めて、MICE 利用がどのぐらいあるかっていうシミュレーションは様々なパターンで行っている途中です。

今、基本計画の見直しを進めているところなので、その中で MICE 利用を想定しています。

【高谷氏】

ありがとうございました。

【大森座長】

質問はよろしいでしょうか。それぞれの方、規模の話だけでなく、その他も含めてご意見をいただければと思います。

私から1点だけ、この資料2の岡山市の立地等環境面についてのところで、少しフォローさせていただきたいと思います。

岡山と広島はよくいろいろな面で対比されているんですけども、先ほど高谷さん、三村さんがおっしゃったコンベンションなどについては、岡山の方、非常に開催回数も多くなっておりまして、また流通業界の立地も、岡山に多く来ております。合わせてハレノワができて1年ということでありましてけれども、多くの県外の方が、ものによっては6割という県外の方が来られたということもあって、立地特性という面では、非常にいいのではないかなというように感じております。少しフォローさせていただきました。

具体的に今日、どこまでの整理ができるかわかりませんが、とりあえず各委員の皆さん方からご意見をいただいてですね、整理を再度させていただければと思います。

恐縮ですが、また、松田会頭からよろしいでしょうか。それから田口顧問に行って、三村さんと回していただきたいと思います。

【松田副座長】

会頭の松田でございます。

今日パシコンさんから具体的な数値も含めまして、やっと具体的な話ができるようになってきたなという感想を持っております。

先月、定例の商工会議所の景況の記者会見をやりましたが、その時には、今日来られている記者さんもおられたわけですが、景況のことよりもアリーナの質問の方が多かった。

その時にやはり規模のことなどを聞かれたわけですが、お答え申し上げたのは、要はレギュレーションとして今後プロスポーツが新たな組織に上がっていくとすると、アリーナの規模の5,000以上ないといけないということは当然なんですけど、ただし、それ以上の余裕を持っていないと、コンサート等使えない、ということもあるので、2,000席ぐらい余分な席はあるんでしょうかねというようなお答えしたんですけど、それもすべてマックスのときにいくらという話になるので、だから平常時にどれぐらい入るかということ考えなきゃいけない部分もあると思います。

最初にそのマックスで考えるときというのは、初期投資で建設費がいくらになるかというところに大きく関わってくると思いますけれども、通常どのぐらいの規模でやったら運営できるかという、運用面での話も出てくると思います。

その際に、適正規模というのがどの程度かというのをはじいておかないと、たちまち運用で赤字が出るということになってしまうと、非常に大きな話になってしまいますので、その点の議論が必要かなと思っております。

それから、北長瀬に設置するというのが場所としては決まっておりますので、駅から近いとはいえ、結構歩く距離があると思っております、その間の移動をどうするかというようなことも検討の余地があるのかなということも考えています。

いずれにしても、アリーナと体育館とでどこが違うんだという議論が随分ありました。今も多分必要ないという人の中には、すでにジップアリーナがあるからいらんじゃないかということを書いてる方があると思いますけど、要はアリーナと体育館の差がよくわかってない中で議論されていると思うんですが、ジップアリーナはアリーナという名前がついた体育館であると。

それは魅せるためのスポーツをやるのではなく、やるためのスポーツのための会場であり、極端なことを言うと観客席はなくてもいいんです、というのが体育館であると思うんですが、アリーナという限りは、魅せるスポーツ、あるいは聞かせる音楽、というような機能になってくると思うので、必ずその客席が必要になってくるわけですから、そのところでそれを充実した施設であるかという岡山には無いと。

従って、それが必要なのだということを基本的にやはり議論していかないといけないと思っています。議論というか、それは当然なのだというように理解を市民の方にさせていただかないといけないと思っています。

そのための席数ということですので、それは最初できるときにマックスで考えなきゃいけない。ただ運用面でのどのぐらいやらなきゃいけないかっていうのも考えなきゃいけないということも、またぜひ、コンサルタントの力をお借りして、議論を進めていきたいと思っています。よろしくお願いします。

【田口顧問】

皆さんどうもお世話になります。岡山市議会議長の田口です。

今回、市長の方からもありました、アリーナの規模ですね、規模感が出れば当然、我々岡山市としても議論にまた、それぞれ議論を重ねていくというようなことになろうかと思えます。

私個人的な考えを申しているのかどうか、なんですけどちょっとお話をすると、反対の人の中に、やはり採算性を言われている、ということですね。それはなんならというと、やはり、これから先の岡山市の財政に逼迫するような施設を作っちゃいけませんよってということだと思えますね。

そういうことはやはり、建設時には1回限りである程度、市長と僕が話をしているわけじゃないんで。私が思うには、まずは1回限りで必要に応じた施設を作っていく。その代わり、これから先は独立採算制で運営をして、後年度に関しては、それぞれの運営される方が運営をしていくということで、この施設をやっていくのが、いわゆる心配をなくす1つになるのかなって思っています。

というのが、やはり毎年毎年何億円のお金を、要するに維持管理費で入れると、やはりそこには、当然、市民の負担が伴いますんで、やっぱりそうした独立で採算できる施設をどう作っていくのか、それをどう運営していくのかということが大事になってきます。ということは、アリーナ自体がやはりプロスポーツとそしてエンタメ系とか今言われたMICEの関係をどういうようにプロモーターをしていて、利用者を使っていく人たちが、要するに使いやすい施設にするかというのが今後の課題だと。

だから、人数も大事ですし、それに伴う施設も、いわゆる、コンサートをする人というと興行ですから、当然そこに利益が出なければならぬんで、やはり興行主がちゃんと利益が出るようなものを求められているアリーナ。だからプロスポーツで言えば、みんながエンターテインメント性のあった、みんながワクワクするプロスポーツをどう魅せるか。

そしてもう1つは、スポーツの世界大会ですね。アジア大会とか世界大会を誘致できるようなスポーツイベントをすることによって、岡山市民から県民の方がそれぞれ間近にそうした最上級のスポーツを間近に観られる。

また、エンタメ系で言うと、テレビで見ている芸能人を含めたそういうアーティストを間近で観られる、ということによって岡山市の市民が期待を持てる、そんな施設をつくっていくということが大事だと思うんで、

やっぱり規模感を含めて、これから運営面も含めても、お金が要らない運営をできる、そういうアリーナをつくっていただきたいという思いでございますので、何卒よろしく願います。

【大森座長】

ありがとうございました。では、三村さん願います。

【三村氏】

はい。ありがとうございます。

私、先ほどのアンケートの話と関連して少し申し上げたいと思うんですが、お隣の三浦先生と林先生はスポーツ専門で、私はそうではないんですが、スポーツ庁が定義をするスポーツとは、すること、観ること、支えること。

でもそれでもですね、半分ぐらいの人はスポーツにあまり興味がないという人がいる中で、これだけ、7割近くを市民の皆さんがアリーナに対して期待しているというのはエンタメを含めて、とてもいい数字かなというふうに思います。

一方で、やはり消極的に考えられている方の数字が29%出ているのは、アリーナのみに着目した議論である影響もあると思料します。つまり、松田会頭からお話が出ている「人と緑の都心 1km スクエア構想」に代表される、都市をどうするのか、まちづくりをどうするのか、具体例では、ハレノワとの関係、交通政策とか商業政策(飲食・宿泊)と関連付けた議論が大切です。先日、大きな学会の全国大会が岡大であり、岡山市内にホテルが取れなくて、多くの方に市外のビジネスホテルに宿をとって頂きました。夜の懇親会では終電を気にせざるを得ませんでした。

だから総合的な経済効果を生み出すためにこのアリーナを、岡山的に交通の要所ということも含めてどう活用するのか。この辺の視点の中で、先ほどの私マイナスの質問したわけではなくて、とてもいい、シミュレーションとしてこの辺が一番独立採算に近いくところまでもっていける、という数字だというふうにグラフを見せていただきました。

ちょっと長くなりますけど、先月パリへ行きまして、パリ五輪の後の視察に行きました。いわゆるパリ市内に8ヶ所大きなコンコルド広場みたいな結節点があって、そこの整備だとかエッフェル塔の下を公園にするとか、パリの場合は箱を作らずに周辺を、オリンピックを契機にしてCO2を削減するための都市政策というものをしましたので、やはり見ていると思うのは、今申し上げた全体的な話なんですね。

アリーナをどう作るかはとても大事なんですけど、やはり北長瀬との総合的な連携だとか、岡山市との連携ですとか今の宿泊で経済効果をどう生み出すために、ここ、いい形で最適の規模で、質と量の両方で作っていくのかということ議論していくのがとても大切なところだと思います。

その前提として、岡山の場合には、市民のためのアリーナという視点もあるので、今日はやはり稼ぐためのアリーナというのがどうしても中心になるんですけど、今日お見えになっている皆様のチームというのはすべてクラブチームですので、やっぱり市民が支えて岡山のまちを盛り上げる、そこから外から人を呼び込むということも考えれば、子供や高齢者の方まで含めて愛してもらえる、活用もできる、365日エンタメとプロスポーツだけ試合しているわけではないので、その他の曜日にどういうふうに市民と寄り添えるアリーナを目指すのか、ここがもう、利益とはやや相反する部分があるかもしれませんが、この辺のところをもう一段、やりながら稼働率を上げていける。

そういうアリーナを目指すのが大切じゃないかというふうに思料いたします。ちょっと長くなりました。以上です。

【大森座長】

ありがとうございました。では、三浦さんお願いします。

【三浦氏】

私の立場からはですね、ちょっと残念なんですけどまだまだスポーツが文化になっていないというふうに思っています。

ですから、それを何とかしなきゃいけないということで、日本スポーツ協会中心に、ソフトの面では一生懸命力を入れてやっています。

今この岡山は、やはり非常に素晴らしい地域であるというところから、スポーツをキーワードにまちづくりをするということが進んでいるんじゃないかと。その中で、やはり我々の立場からは、この中で、頑張っているプロチームがいるのに、まだまだなぜ皆さんそこまで多くの人が目を見ないのかなということがとても残念です。世界基準のものをぜひ、これも作って欲しいというような希望があります。

ソフトとハードが同時に我々の世界で進歩しているような状況ですから、私たちは本当にこれをひとつのきっかけに楽しみにしながら、教育という場面で、ソフトのところにも力を入れたいというふうに思っていますから、どうぞよろしくお願いいたします。

【大森座長】

ありがとうございました。では、林さんお願いします。

【林氏】

まず、お話をする前に、1つ私が関わっていることで、今回愛知県豊橋市で、アリーナ建設に反対する市長が当選されて、非常に今問題になっています。

岡山においてはそういうことはないというふうに思っておりますが、一方 B リーグにおいては、非常に売り上げが急成長しておるといような状況もあります。

そういうような外部環境で厳しい状況がある中で、岡山でどういうアリーナの位置付けが必要かということで、3点申し上げたいと思います。

まず1つは、現在、ハードの話はどんどん進んでいます。一方で、これをどうビジネスとして、何度も言いますが、経営し、トップスポーツチームの方々、あるいはコンサート、そういったものを活用して儲けられる体制づくりを進めるかというような話が、私は全然触れられてないというのを非常に危惧しております。

それは箱を作ってからされるというご計画なのか、それとももう水面下で進んでいっちゃうのか私は存じませんが、その辺り、つまりそれを、ラーメン屋で例えれば店舗は作ってそこでうまいラーメンを出せるようなオペレーション等々が議論されずして、箱だけつくってラーメン屋に来てくださいって言ってもお客は来ませんよと。

というようなところで、その部分について、非常に危惧しておりますので、そのあたりの議論をコンサート主催者あるいはトップスポーツチームの関係者、そういった工夫だったり、お集まりいただいて実の部分のオペレーションをどうするかという議論を、ぜひお進めいただきたいなというふうに思います。

2つ目です。

今回 29%近くですね、反対の方がいらっしゃる。

私はスポーツの価値をどんどん広げていきたいという立場の人間です。

三浦先生もおっしゃいましたが、まだまだスポーツの多様な価値。その後、豊田市の方も全然まだスポーツの価値が理解、住民の方がされてないなという意見が、そういう意見になっているんじゃないかというふうに、心配しているというか、危惧しています。

私としては今回、市の事務局のご尽力で動画を作ってくださいましたけども、ああいったものを活用しながら、さらにメディアの皆さんにもぜひお力をお借りしたいんですが、もっと多様なスポーツの価値、勝った負けたとか、強い弱いとか、そういうものだけじゃないスポーツの価値というものを、番組なのか何らかの形で発信していただきたいというふうに思います。

それは、今回、議長会の皆さんもそうですけど、岡山市にとって、さらにはそれが県全域のシティプロモーションに繋がる、今日の山陽新聞でも、ジェットロと組んで、岡山県産品をアジアに売り込むというような話題が取り上げられました。

ぜひこのアリーナとかトップスポーツチームの皆さんが、シーガルズさんがやってくださっているように、アジアに売り込むための拠点になると、そのぐらい二次的最終的な経済の波及効果があるんだというようなところを、ぜひもっと市民、県民の皆さんにご説明いただければ、僕は、もっと多くの人たちが、この間計画に対しての賛同を得られるんじゃないかというふうに思います。

3つと言いました時間の関係上、2つにします。以上です。

【大森座長】

ありがとうございます。では、それではタイにも強い高田さんお願いします。

【高田氏】

岡山シーガルズの高田です。今日はありがとうございました。

今リーグ中でいろんな方とお話する中で、推しのチームの選手を見るためにリハビリを頑張っているとか、体調を整えて、抗がん剤治療の間と間に応援に来たとか、そんなリアルな声を聴くと、身近にすぐに行ける、階段の少ない、車椅子でも行けるアリーナというのは本当に必要だなと思いました。

松田会頭が初めてホームゲームを観に来られたときに、これ倉庫ちゃうんかみたいなことを言っておられたことを思い出していて、今いろんな新しいアリーナができたり、完成間近というところで、作られている方とか、運営に入ろうとされている方の声を聞くと、なんかすごくネガティブな言葉が多くて、今からすごい楽しみなのになんでこんな、皆マイナスなことばかりおっしゃるのかなと思うと、その前からこういった場がと設けられて、私たちが参加させていただけるというのはすごく今は幸せな環境だなと思います。

引き続きよろしくお願いします。

【大森座長】

ありがとうございます。では、それでは中島さんお願いします。

【中島氏】

トライフープ代表中島です。

僕は、独立採算に向けて、本当に貢献していただければならないと、プロクラブとして思っているので、プロクラブもおそらく運営に関わってくると思うので、協議を重ねて、まずは、自クラブが新アリーナにふさわしいチームになるための課題を見つけ出して、前向きにチームが独立採算に貢献していけるようにしていかなければならないなと思いました。

あと、アリーナのアンケートに関してなんですけれども、まだまだ10代20代のアンケート数が少ないの

で、バスケットボール協会や、提携先と協力して、この辺りのアンケートの数もまだまだを集めていきたいなと思いました。

以上です。

【大森座長】

ありがとうございました。羽場さんお願いします。

【羽場氏】

岡山リベッツの羽場です。

やはり私が今日資料で注目したのがこのアンケート結果でして、今、プロスポーツアリーナみたいな言い方ではあるんですが、やはりコンサート・ライブが一番注目されている、期待しているということと、それ以外にも、いわゆるMICEと言われるものであったり、eスポーツなど、いろいろなものを期待されているということなので、何かに特化したものではなくて、やはり、何でもできるというか、いろんなものに対応できるようなアリーナであることが大事かなと思っております。

やはり一番のキーワードが、田口議長や林先生がおっしゃったように、独立採算、採算性というのが大事だと思っていますので、元々は、あまり大きなものを作るとお荷物みたいになっちゃって、ほれ見たことかと言われかねないかなと思っていたんですけど、やはり大は小を兼ねるというビジネスモデルをしっかりとつければ、独立採算も考えられると思ってしておりますので、作ってよかったなと思えるアリーナができることを期待しております。

以上です。

【大森座長】

ありがとうございました。北川さんお願いします。

【北川氏】

ファジアーノ岡山の北川でございます。

前回、2つお伝えをいたしました。1つが、スポーツアリーナにするのか、コンサートアリーナにするのか、仕様をしっかりと決めなければいけないということと、もう1つはしっかりした数字を見たいということをお前回お伝えしました。

私がここに呼ばれているのは、少し客観的な立場で厳しい意見を言えということだと思っているので、非常に発言しにくいんですけども、今日ご紹介いただいたところでも、例えば佐賀のアリーナなんていうのは、大変コンサートで苦労しているとも聞いております。

輸送費が3倍になってくると、なかなか西まで歌手が来てくれない状況で、佐賀アリーナでも、使用料をほぼ取らずに歌手を呼んでいると聞いておりますし、ララアリーナでも、コンサートアリーナに特化をしているからこそ、使用する千葉ジェッツが使用料1日1,000万ぐらい払って年間30試合やっている。1日1試合1,000万円。

長崎のアリーナも1週間で1,000万強の使用料がかかり、多分バスケットで使用するならば、300万から400万払わなくてはならない状況になってしまうと。

なので、最初の2点、ぜひ具体的なものを見たいと思っております。事業計画に基づいた数値というものを見ない限り、先ほど三村先生がおっしゃったように、しっかり前向きな議論ができないのかなと思います

ので、その2点、要望を申し上げます。

【大森座長】

ありがとうございました。じゃあ高谷さんお願いします。

【高谷氏】

商工会議所の高谷でございます。

まず、本当に大森市長、田口議長には、この岡山のアリーナの議論に入っていただいたことについて本当に心より感謝申し上げたいと思っております。

今岡山も本当に近くでVリーグ、Bリーグそれからスーパーリーグ、近くでこのプロスポーツが観られるということを本当に誇りに思っております。

観るスポーツという観点からこのアリーナが今議論されておりますし、また先ほどから議論されている、本当にこの近くで、アーティストのコンサート、今ハレノワももちろんありますが、このコンサートが、また、岡山の若者にとって多分誇りに思う施設になるというふうに期待をしております。

一方で、今日議論になっていないんですが、北長瀬のエリアは、岡山市民病院、救急救命のですね中心の施設があり、北長瀬の公園は今広域な避難所になっておりますし、今回の市長からもお話あったように、今回のアリーナの、防災の拠点という1つの大きなテーマがあります。

その中で、この一帯を考えたときにちょっと気になることがありまして、私も大元学区に住んでおり、行くんですが、岡山ドームと今回のアリーナの場所の間に大きな道路が横切っています。

コンサートがあって8,000人が動くと、今デッキになっておりますが、逆にこれ、防災から考えると、やはりフラット化というのが、実は必要なのではないかなというふうに感じておりまして、この道路をどうするかということを1度ご検討いただいた方がいいのではないかなというふうに感じておりますので、ご検討よろしくお願ひしたいと思います。

本当に今回、岡山市民、ここで県民と言っていいかわかりませんが、本当に岡山市民県民のためにも、この施設が有意義な施設になることを期待しております。

どうぞよろしくお願ひします。

【大森座長】

ありがとうございました。では森さんお願いします。

【森氏】

はい、失礼します。

今日いただいた、まとめのところでの提案、最大収容者数が1万でコンサート8,000席ぐらいがベストソリューションでしょうということ、何となく私がこれまで集めた数字の中でも腑に落ちるところの数字かなと思いますけれど、一方で敷地面積の限界であったりとかですね。

当然これによって跳ね上がる建築コストをこれからどうしていくのかっていうところ、会議所の方でも、この辺りは、どういった連携がとれるのかっていうのがちょうど議論が沸騰しかけたところでございますので、前例をいろいろ調べますと、企業版ふるさと納税を使ってらっしゃる自治体も多数あるように聞いておりますので、その辺りをしっかり勉強していただきつつ、何とか整えられればなというふうには感じております。

それと、運営会社についてですけれども、様々方策が考えられますが、思うにこの岡山の地に、この一

帯のいわゆるスポーツセットを使った、エンターテイメントも含めた興行をハンドリングできる専門会社っていうのをつくり上げる必要があるだろうなということを考えております。

様々な専門家の皆さん方によっていただかないといけませんけれど、とはいえ、これを他県の企業、大手の企業に●●してしまいますと、そのまま利益をごっそり抜かれていかれてしまうということになりかねませんから、しっかりとこのうちに利益を循環させるための仕組みづくりっていうのも、大変重要なことというふうに思います。

先般、広島のパースウイングスタジアムに行きまして、できたばかりのピカピカのスタジアム、照明施設とか、作りとか、周辺の施設との連携とか、もうある意味次元が違うというか、岡山で観られるものとは全く異次元の方でございまして、それが隣の県でできているってのが、僕的には悔しい。岡山でどうしてあれができないのかと思います。ちょっと残念に思います。

決して大きなスタジアムじゃないですけど、ばかでかいスタジアムじゃないけれども、本当に広島によくあったサイズだな、というのと、そのすぐ隣に防災公園があって、緑の芝生がバーツと広がっていて、試合前の数時間市民の皆さんが、思い思いに芝生を使って和んでらっしゃる人の数が半端じゃない。すごい数が皆さんいらして、すぐ隣に市民プールがあって、そのすぐ隣には広島のアリーナがあって、そのアリーナがまた更に今度改築されているということで、もうエリア的には、政策投資銀行さんが言われるいわゆるスマートベニュー、都市の副都心建設、もうまさにその街ができていう、ああいうのを、間近に見まして、ぜひそういうふうには北長瀬になる可能性はしっかり秘めていると思いますから、いろんな問題がありましようけれど、しっかりとクリアして、進めたい。

うちには高校生がいますけれど、高校生みんなが、あのスタジアムがあるんだよって言って他県に自慢ができるような、将来そんな施設ができたらいいなと思っています。

よろしく願います。

【大森座長】

ありがとうございました。では神崎さん願います。

【神崎氏】

経済団体連絡協議会の神崎です。

本日はこのアンケートの結果それからイベントプロモーターのヒアリング結果の最適規模の考え方について、詳しくお調べいただき誠にありがとうございます。

まずアンケートの結果については、非常にアクティブな回答者という感想で、そういった方が非常に期待しているということで、なるほどと感じた一方で、期待しないであるとか、今の施設で十分という話もありました。

私がいろんな方にこの話を聞くとときに、今の施設で十分というところは、まだまだこのアリーナというものに対して、従来の今現在使っているジップアリーナだとか、従来の体育館と全く違うんだということがなかなか理解できてない、理解が進んでいないというところがあると思いますので、この辺りはさらに理解を進めるような努力をしていかなければいけないと思っておる次第です。

それからヒアリング結果、それに伴う最適規模の考え方なんですけれども、大体想定していたような結果が出てきたなと思うんですけども、問題は、どうしても限られた施設、敷地になってきますので、十分な席数をこれ以上取るのはなかなか難しいという中であって、今日の話の中で、センターを中心に座席を設けるということだけではなくて、C型U字型というような、コンサート時の座席数を減らすことを少しでも少な

くできるという工夫もお聞きできました。こうしたことによって、1つ問題解決ができるんじゃないかなという期待を感じました。

一方で、前回沖縄アリーナの話をお伺いさせてもらったときに、興行ではなくてスポーツ、あるいはスポーツと関連したイベントによって採算がとれている話がありました。

と、いうこともありますので、このコンサートが非常に期待している声も大きいと思いますし、私もそう思います。

もちろん、岡山という必要性というかマーケットは非常に広域になっていますので、非常に期待ができるところがあるんですけども、やはり採算ということを考えてくると、もちろんイベント、興行会社にとっては利益が出るような形を提供できるんだと思う一方、岡山におけるこのアリーナで採算が取れるのであろうか、先ほどお話がありましたように、実際に今現在、一番最初に問題提起をいただいたのは、スポーツチームの5,000席以上の座席というのがありましたので、こうしたスポーツの利用と合わせて十分な採算がとれるかをさらに検討を進めていかなければならないと思った次第です。

本日はありがとうございました。

【大森座長】

ありがとうございました。では野田さんお願いします。

【野田氏】

岡山経済同友会の野田でございます。

いろんなご意見や、問に賛同するところがあれば、そうでもないかなということもあったんですけど、座席数に関して言いますと、やはりこれはもう、大きいほどいいのではないかなと私は今でも思っています。

例えば藤井風さんのようなビックなアーティストが、どういう基準でライブやコンサートをやる場所を選ぶかなと思ったら、やはり座席数、規模が一番大きいのではないかと。岡山の近隣県神戸、広島、高松といろいろできていますけども、やっぱりその中でビックアーティストが選ぶとしたらやっぱり、座席数というのが一番大きいのではないかとということで、競争力はさっき言った席数の多さに直結するのではないかとこのように思っております。

運営面で生産性ということもありました。これはアリーナ単独で考えるのではなくて、先ほどから出ていますように、レストランとかフードコート、それから、ショップですね。それから、誘致ができるのであれば、ホテルとか、温泉施設とか、高齢者施設とか、そういうそういったところも全部ひっくるめた総合力での採算性を考えていく必要があります。動線とか回遊性というものも重要になってくると思っております。

アリーナが核になったお城と、その周りにあるその周辺施設が城下町のような、そんな関係が理想なのではないかなと思います。

【大森座長】

ありがとうございました。では長澤さんお願いします。

【長澤氏】

日本政策投資銀行の長澤でございます。

本日はいくつかご説明いただいて、イメージがよくわかったところなんですけれども、アンケートにつきましては半数以上の方が賛成ということで、非常に前向きに考えておられるなと考える一方で、先ほどありま

したように反対の方もいらっしゃるということで、豊橋の例なんかは私も聞いておりました、市民の反対団体みたいなのが出てきて、市税で税金を減免しようとするのができなくなるといった話もあると聞いておりますので、ここはやはり丁寧な説明が必要なのかなと私も思います。

施設の規模につきましては、イメージとしては私もこういう形で、コンサートもできるような形がよろしいんじゃないかと考えますけれども、ご説明でもありました、規模が大きくなるとコストも大きくなってきますので、今後は具体的な数字で語っていただくにより透明度が出てくると思っております。

収入についても、内訳としてコンサートでどのくらいの収入があって、スポーツではどのくらいとか、その辺りの前提の条件もできれば数字で語るとより透明度が出ると思っております。

少し話が逸れますけれども、アリーナには経済的価値だけではなくて、市民のウェルビーイングの向上や、シビックプライドの醸成など、社会的価値も大きいと認識しています。

私どもの銀行では、スタジアムアリーナの社会的価値の定量化、可視化にも取り組んでおまして、先般公表した実験的な調査では、スタジアムの投資額を上回る社会的価値を生んでいるとの結果も出ています。

これは、吹田のスタジアムを実験的に調査したということなのですが、このような側面にも着目することで、行政による資金の拠出の理由づけですとか、あとはSDGsを重視する企業の参入なんかにも繋がるんじゃないかと思っております、ご参考までに紹介させていただきました。

以上でございます。

【大森座長】

ありがとうございました。では岩田さん。

【岩田局長】

市民生活局長をしております岩田です。

事務局側としてということになります、今日様々なご意見いただきました。

次年度に向けていろんなことをまだこれから検討していかないといけないということで、経済界、商工会議所を中心に、プロチームの方々も含めこれからしっかり議論して、作ってよかったと思われるものにしていきたいと思っておりますので、引き続き、貴重なご意見等いただければありがたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

以上です。

【大森座長】

皆さんありがとうございました。とりあえず私からまとめさせていただいて、それに対して思うことがあればまたお聞きしたいと思います。

まず、最初に申し上げましたけども、63%の方が賛成しているというのは非常にありがたいことだと思っておりますが、29%の方が期待しないと言っていることも事実であります。

アリーナそのものが皆さん方にご理解いただけないのではないかという話とか、また、規模感が整理できてないから、まだ期待するとは言えないというような方もおられます。

地道に、我々としては、このアリーナを建設する意義を伝えていきたいというように思います。

それから、少し、これからどういうイニシャルコストで対応していくかという話で、商工会議所の中でも議論されているということでしたが、参考までにはありますけれども、一昨日、私、企業版ふるさと納

税、これが今年度切れます。それを延長すべく、内閣府の大臣のところに行って、要請をして参りました。

これは岡山市長としてというよりは、政令指定都市の全体として決議をし、持っていったところでありませぬ。

もちろん、これからの税制改正の中で議論される話ですから、明確にイエスという話ではありませんでしたが、総理とも話をさせていただきたいという、前向きな回答はいただいたところでありませぬ。

それからやっぱり大きな議論として、林委員また●●委員がおっしゃった、これからも具体的にどうやって、ランニングといいますか、マネージしていくかっていうのは重要であり、まだ、そういうソフトの体制の議論そのものができてないんじゃないか、という話は、耳の痛いところでありませぬ。

森さんからは、地元で利益を吸収すべく対応していきたいという話もありましたので、この話はもうとにかく、経済界とともに、我々も議論をさせていただいて、早めにどういう段階で対応ができるのか、松田会頭とも議論させていただきたいと思ひませぬ。

それから、アンケートの話が随分あった、結果があったんですが、実は、クエスチョン 4 のアリーナに期待する効果は何ですか、といったときに、私は地元トップチーム、それからコンサートとかそういったことが出るのかなと思ひたんですけれども、まちのにぎわい創出、それから経済波及効果、都市イメージの向上。長澤さんのシティプライドのような、そういった意識を持っておられる方が非常に多い。

従って、北長瀬でアリーナを作って、都市のイメージがどう変わるのかということは、あの辺りの都市構造をしていくのかっていうことを議論していかなくやならない。

そういう中で、高谷さんのおっしゃった、公園等の一体性みたいな議論もあるんじゃないかと。これはどちらかというところ、ここでの議論よりも、市役所の中の議論というのが中心になるかもしれない。

それぞれの有識者の皆さん方との議論をさせていただいて、その辺も我々として検討してやらせていただきたいと思ひませぬ。

それから、野田さんの大きければ大きいほどいいという議論をいただきました。それはおっしゃる通りのところもあって、私も、藤井風には来てもらいたいと思ひますけれども、それが水面下で接触したこともあるんですけれど、あまり言えませぬけれど、やはり相当の集客が出てきている本人というよりも、彼らとしても全体として、どこで興行するかというは非常に大きな話になっているということで、わからないではないんですが、今日全体として、出てきたのがやっぱり採算をどう取っていくのか、ということでありませぬ。田口議長から、運営のあり方、ランニングで我々が公の経費をずっと出していくというわけにはいかないんだという話も言われたところでありませぬ。

そういう面では、とりあえずこの規模をある程度固めていかないと次の重要な経費がどうする、具体的にどういうものを作っていくんだというところが全く動けないんで、今日のところは、最大収容人数 1 万人、コンサート利用費 7,000 から 8,000。これが最も採算的には有利だということで、この線で次の作業やらせていただくということで、どうかなというように思ひませぬ。

一応、まとめとしてこうさせていただきませぬけれども、よろしいでしょうか。

(拍手)

野田さんからも拍手をいただいたということでありませぬ、プロスポーツの皆さん方もよろしいですよ。

ではそういうようにさせていただきたいと思ひませぬ。

皆様方何か特にその点だけは、話をしておきたいというのがあれば、よろしいでしょうか。

それではですね、次回、皆様方の予定を確認させていただいて 12 月の下旬に検討会議を開きたいと思ひませぬ。そこでは、今日、各地のアリーナのご紹介をさせていただきましたけれども、今度は我々の施設概要。こんな形でやっていきたいと。

そして、それに伴っての概算事業費、そこを提出させていただきたいと思います。また、活発な議論をしたいと思います。

今日は本当にありがとうございました。

【司会】

ありがとうございました。以上を持ちまして第3回アリーナ整備検討会議を終了します。

本日は誠にありがとうございました。